

児童館の今後のあり方基本方針【概要版】

令和7年2月 多摩市

1. はじめに（児童館の今後のあり方基本方針を考える背景）

多摩市の児童館は、高度経済成長期の昭和48年の一ノ宮児童館の開館を皮切りに、市内を10のコミュニティエリアに分け、10館の児童館を整備する方針に基づき、設置を進めてきました。この当時は第二次ベビーブームがあり、児童福祉施設の整備ニーズが高まったことが、児童館整備の背景にあります。

そこから50年を経た現在、子育てを取り巻く状況も大きく変わっていることから、児童館の事業内容や施設のあり方などを再考する時期になっています。市ではこれを「未来につながる分岐点」と捉え、子どもや保護者を支援し、強く生きる力をもった子どもの育成に、これまで以上の力を発揮できるようにしていくための児童館の道しるべとして、この方針を定めるものです。

児童館は、18歳以下のすべての子どもと保護者にかれた、**多摩市の未来を育む館**です。

①多摩市の児童館は子どもの時間を大切にしています。

②子どもが自分の意思で、気軽に行ける居場所です。

③大人の顔色を忖度しないで、自由に体験するから、そこから学び、子どもが強くなります。

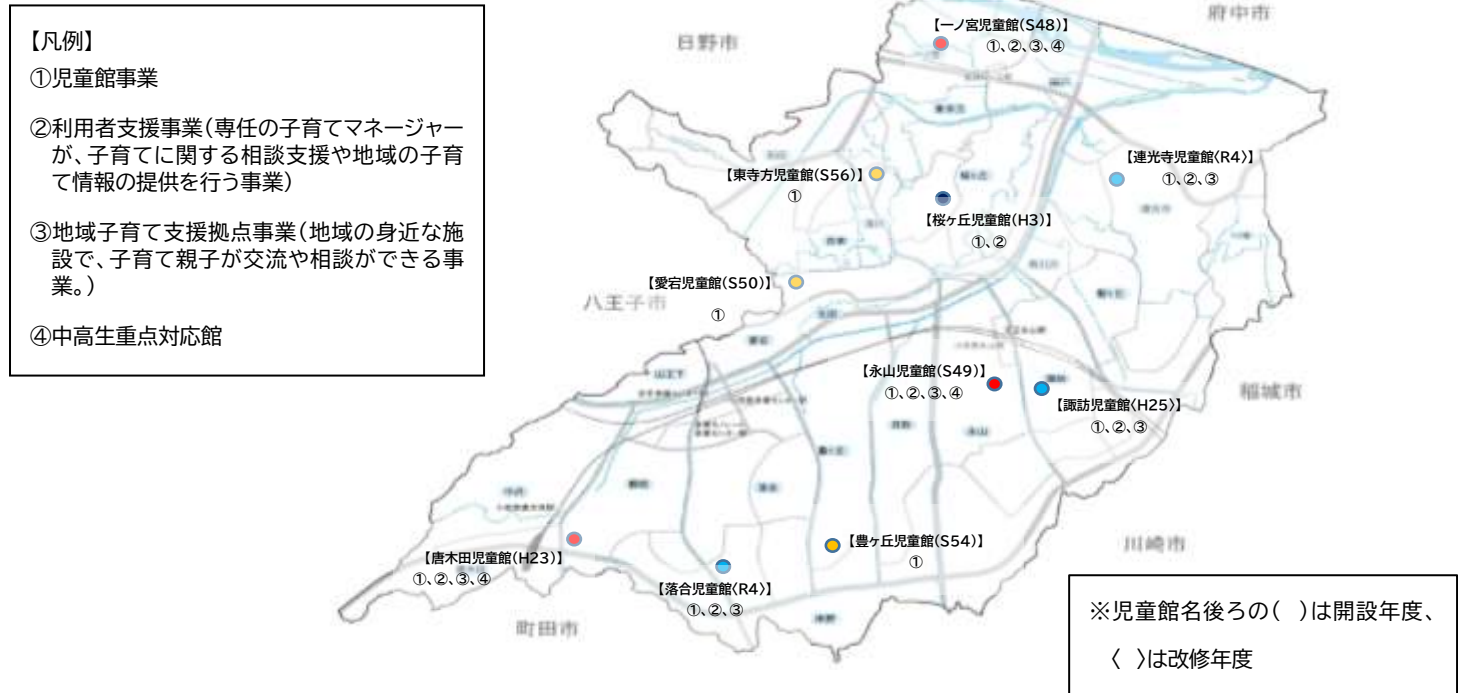
④様々な年齢の子どもが、他者と関わり、大人の社会を模倣することで“社会的役割”を学んでいる場所です。

⑤地域の子どもを、地域の大人が育て、安全を守っていく場所です。

児童館はすべての子どもたちが自由に利用できる施設です。そのため「児童館へ行きたい」と自発的に思い、たくさん子どもたちに選ばれるような魅力ある施設でなければいけません。

しかし、その時代時代の行政需要や地域社会の要請にこえていくために、困難をかかえる子どもや保護者への支援など様々な役割を背負ってきた結果、地域のすべての子どもを対象にした健全育成という最も基本的な役割が弱まっています。

【多摩市の児童館の配置】



2. 多摩市の子育て施策における課題

- ①全国的に少子化が加速し、その要因も複合的になっています。多摩市においても例外ではなく、成しうる子育て支援策を迅速に行う必要があります。
- ②子どもや家庭を取り巻く状況が変化し、子育てに係る問題は多様化、複雑化しています。こうした変化を踏まえ、市民ニーズに応える施策が展開され、安心して子育てできる環境を提供することへの期待が高まっています。
- ③市のシティセールスとしても、多摩市の子育て環境が優れていることを市内外に発信することで、多くの子どもとその家族が多摩市で暮らし、子を育む事を望むような街づくりに資する必要があります。

児童館の現状

(1)配置について

近隣地域の方々が利用しやすいように、市内全域に点在する形で10館設置されています。

※厚生労働省で区分している児童館の種別では、唐木田児童館が児童センター、他の9児童館が小型児童館に位置づけられます。

(2)事業内容について

①子育て支援事業：子育てを担う保護者に対し、子育ての負担軽減と孤立化の予防を目的に、子育て情報や保護者の交流の場を提供しています。また、児童館が気軽に相談できる場所として、保護者の困りごとを見つけ、必要に応じて専門機関につなげる役割も担っています。

②子育て支援事業：子どもたちに遊びを通して、「体験をできる場」「意見表明できる場」「安心して過ごせる場」を提供することで、子どもたちの主体性や自主性を尊重しつつ、子どもたちの心身の発達を支援します。家庭環境に左右されることなく誰もが安心して利用でき、子ども自身の意思で様々な行事に参加し経験できる数少ない場です。

児童館の課題

- ①全館が類似した事業を定期的に行っており、児童館各館の特色が無くなりました。
- ②開設から30年以上経ち、大規模改修など老朽化の対応の時期を迎えた児童館があります。
- ③職員の新陳代謝により経験の浅い職員が増え、ノウハウの継承が難しい状況があります。
- ④児童館は市内全域に設置されているものの、地域環境が異なり、各児童館の需要に影響を及ぼしています。
- ⑤乳幼児専用スペースなど児童館建設当初には想定していなかった機能により、施設が手狭になっています。
- ⑥中高生の多様なニーズに応えられるような施設にしていかなければなりません。

3. これからの多摩市の児童館（将来像）

- 国の動向 →児童館の基本的機能・役割と発展的機能・役割を整理し、再編していくという課題提起
- 近隣市の状況 →児童館を各地域で均質提供→基幹児童館や地域児童館といった役割分担
- 小学生の放課後の居場所の変化 →学童保育施設の小学校内への設置、放課後子ども教室の充実
- 地域子育て支援拠点事業・利用者支援事業の今後のあり方 →地域施設との連携と役割分担による事業展開を検討中

これらを踏まえ、これまでの児童館の機能、役割とは別に、以下に重点を置いていきます。

これからの児童館が重点を置くこと

①放課後子ども教室や学童クラブでは実施が難しい独自の事業展開、児童の健全育成に資するあそびの企画、実施

②中高生の放課後の居場所としての運営

③学童クラブ、放課後子ども教室の運営支援、管理・指導、職員の研修機会を設けての育成

④地域の子育て関係団体、地域住民等と交流・連携し、子育て環境の向上につながる業務

これからの多摩市の児童館（将来像）

将来的に、今後の児童館像として次の4種類を想定していきます。

基幹となる児童館 0～18歳対象 駅近くに配置 特長：基本的な児童館事業に加え…相談支援／地域の児童館の支援／移動児童館など館にとらわれない運営 →①エリアの中心となり、地域の児童館へのサポートによる技術支援が可能 ②移動児童館などにより、児童館へ通いにくい利用者へ事業を提供することが可能 ③移動児童館を公園など広いスペースで行うことにより、利用者がのびのびと過ごせる事業展開が可能
地域の児童館 0～18歳対象 個別地域内に配置 特長：地域の身近な児童館 →①引き続き身近な地域での児童館事業を展開 ②年少人口の動態に応じ、コンパクトな児童館事業の展開が可能 ③地域特性、子どもの特性に応じた催しの実施強化が可能
アウトドア特化館 <児童センター> 特長：基幹となる児童館の役割に加え、野外活動、自然活動などアウトドアに特化した児童館 →①自然を通した感受性の育成、体力の向上、家族全体で楽しめる特色ある新しい児童館の創造 ②子どもだけでも家族全員でも楽しめる特色ある新しい児童館の創造 ③野外活動を楽しんだ思い出が多摩市への愛着につながり、次世代の地域の担い手育成にもつながる
中高生専門館 13～18歳対象 特長：設備も事業運営も中高生対応に特化 →①現状施設では難しい中高生対応に特化した事業展開が可能 ②現状の児童館では体験できない運動や文化活動を思春期に経験できる特色ある児童館の創出 ③いろいろな経験を通して将来への希望などを得られるとともに、次世代の地域の担い手育成につながる

4. 利用者（子ども、保護者）の意見

令和5年度に市内各所で実施した児童館50周年記念展示のアンケートに寄せられた市民の感想からは、児童館があったからこそ子どもが育つことができたと考えている方が多数いること、そして、これからもそのような役割を児童館に期待していることがうかがえます。

5. 児童館の可能性

これまで児童館では、めまぐるしい社会変化の中で、遊びを通した児童の健全育成のみならず、行政課題や地域社会要請に応えるべく様々な事業を積み上げてきました。その間も、目の前にいる子どもたちや保護者の皆さんに寄り添うとともに、いかにして地域の皆さんの信頼を得るか、そしてまだ児童館を利用したことのない方々に児童館に来ていただくにはどうすれば良いのかと考え、試行錯誤を繰り返してきました。その結果、利用者や地域の皆さん、関係機関の皆さんから一定以上の評価を得ていると考えています。

これからの児童館は、これまで果たしてきた役割の一部を放課後子ども教室など他の事業に委ね、移動児童館等のアウトリーチ事業、館に捉われない柔軟な事業も展開して、多摩市の子どもたちや保護者の皆さんにこれまで以上に充実した日々を過ごしていただけるよう、新たに前進します。

その際、誰もが気軽に集えるという児童館の基本となる部分は守り続けていき、異年齢や異なる所属（学校）の子どもたちが一緒に活動できるという、児童館ならではの良さは守っていきたいと考えています。



5年以内に目指す姿

